

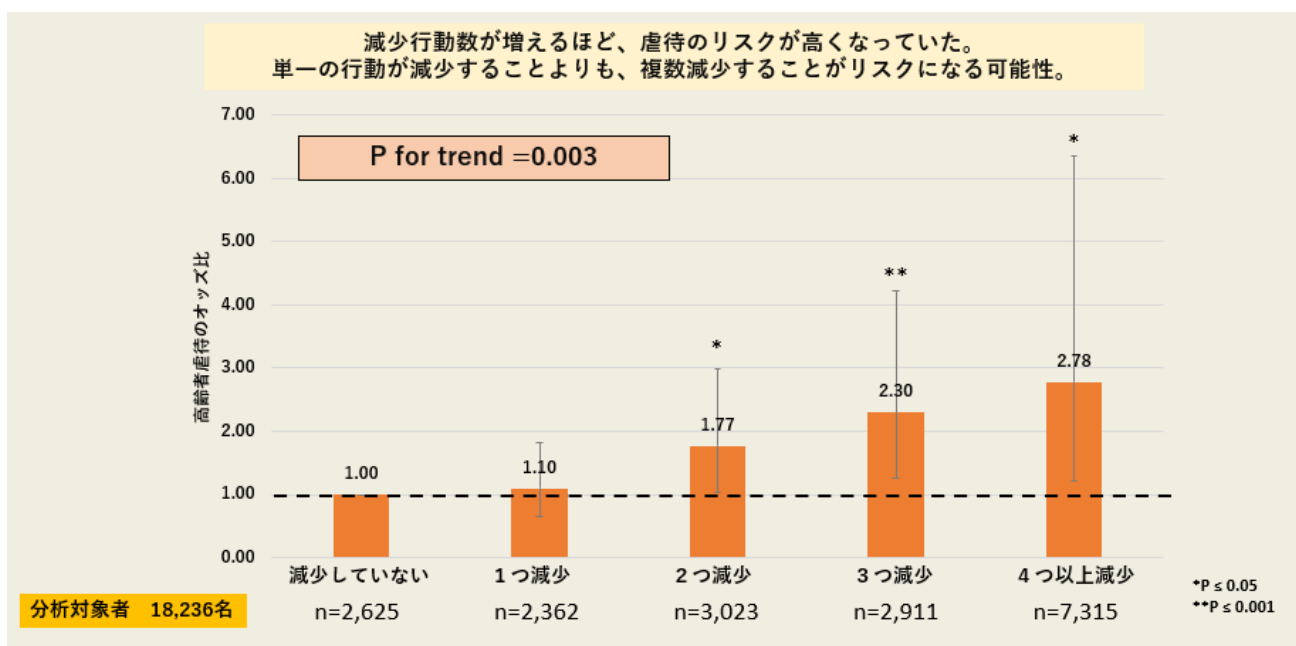
# コロナ禍で行動減少の数が増えるほど 高齢者虐待のリスクも増加 最大2.78倍

～特に日用品の買い出しと近隣との交流を減らした人でリスクが増加～

新型コロナウイルスの流行に伴い、高齢者を含む多くの人が行動を制限され、自粛が促されることとなりました。この外出規制で家庭内での暴力や虐待の増加が懸念されていますが、具体的な行動減少の種類と数に着目し、高齢者虐待との関連を検証した報告はみられません。そこで本研究は、コロナ流行下での高齢者の行動減少と虐待の関連を検証しました。高齢者18236人を対象として分析した結果、それぞれ減らさなかった人と比較し、「食料・日用品の買い出し」を減らした人では1.36倍、「近隣住民との交流」を減らした人では1.56倍、虐待のリスクが高いことがわかりました。さらに減らした行動の数が無い人と比較し、増加すればするほど虐待のリスクも増加するということがわかりました。

お問合せ先： 東京大学先端科学技術研究センター共創まちづくり分野

特任助教 古賀千絵 [chiekoga@cd.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:chiekoga@cd.t.u-tokyo.ac.jp)



性別、年齢、教育歴、職の有無、主観的困窮感、婚姻状況、同居家族、うつ、コロナによる収入の変化、日常生活動作(ADL)を考慮済み

図1. 行動の減少数と虐待の関連

## ■背景

新型コロナウイルスの流行に伴い、高齢者を含む多くの人が行動を制限され、自粛が促されることとなりました。これは高齢者の身体活動の減少による筋力低下等の身体的健康が懸念されるとともに、人との交流が制限されることでの心理・社会的健康の悪化も危惧されています。さらに、コロナ流行下でのロックダウンや外出規制で家庭内での暴力や虐待の増加が懸念され、今年に入り、増加していると報告されています。しかし、具体的な行動の減少と数に着目し、高齢者虐待との関連を検証した報告はみられません。そこで本研究は、コロナ流行下での高齢者の行動減少と虐待の関連を検証することを目的としました。

## ■対象と方法

使用したデータは、日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)が2020年12月に11市町村で実施した自記式郵送調査(回答率78.3%)です。研究デザインは、1時点のデータを用いた横断研究です。分析対象者は、日常生活の自立した65歳以上の高齢者18,236名としました。高齢者における虐待の状況は、「新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言期間中(2020年4月～5月)のあなたの生活に関するおうかがいします。あなたが感じたり経験したりしたことについて、あてはまるものに○をつけてください。1. 殴られる、けられる、物を投げつけられる、閉じ込められるなどの身体的暴行、2. 暴言を吐かれる、嫌味を言われる、長い間無視されるなどの自尊心を傷つけられる行為、3. あなたの預金や年金を、あなたの了解なしに使ったり取り上げられたりされた(家族からも含む)」、のいずれかに○と回答したものを虐待ありと定義しました。行動減少については、「緊急事態宣言期間中(2020年4月から5月)のあなたの生活に関するおうかがいします。普段より頻度を減らしたか、やめた行動について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。1. 外食 2. 食料品・日用品の買い出し 3. 食料品・日用品以外の買い出し 4. スポーツジムなど屋内での運動 5. 屋外での運動や散歩 6. 近隣住民との交流 7. 医療機関の受診(新型コロナ感染が疑われる場合を除く) 8. 公共交通機関の利用 9. 美術館・映画館の訪問 10. 縁日などの地域の行事参加」としました。行動減少の種類はそれぞれに○を付けた者とし、行動減少の数はこれらを足し合わせ、減少していない、1つ減少、2つ減少、3つ減少、4つ以上減少のグループに分けました。統計学的手法(ロジスティック回帰分析)を用いて分析し、性別、年齢、教育歴、職の有無、主観的困窮感、婚姻状況、同居家族、うつ、コロナによる収入の変化、日常生活動作(ADL)の影響も考慮した分析を行いました。

## ■結果

高齢者虐待は、288人(1.58%)観察されました。個々の行動減少の種類に注目すると、「食料・日用品の買い出し」を減らした人では1.36倍、「近隣住民との交流」を減らした人では1.56倍、虐待のリスクが増加していました。行動減少の数では、数が増えるほど、虐待のリスクが高くなり、4つ以上減少した人では2.78倍、虐待のリスクが増加していました。

## ■結論

近隣住民との交流や、食品・日用品の買い出しを減らした者で虐待のリスクが高くなっていました。さらに行動減少数が増えるほど、虐待のリスクが高くなっていました。単一の行動が減少することよりも、それらが積み重なることで顕著にリスクが高まる可能性が示されました。

## ■本研究の意義

コロナ流行下において、広く行動を制限している者は虐待のリスクが上昇する可能性があることから、感染症が新たに拡大した際には、そのような高齢者の虐待リスクに注意深くなる必要がある可能性があります。

## ■発表論文

Koga, C., Tsuji, T., Hanazato, M., Sato, K., & Kondo, K. (2022). The association between elder abuse and refrainment from daily activities during the COVID-19 pandemic among older adults in Japan: A cross-sectional study from the Japan Gerontological Evaluation Study. *SSM – Population Health*, 19.

<https://doi.org/10.1016/j.ssmph.2022.101229>

## ■謝辞

本研究は以下の研究費や財源により、実施できました。日本医療研究開発機構(AMED)の長寿科学研究開発事業、「地域づくりによる介護予防の推進のための研究」、社会経済格差による生活習慣課題への対応方策立案に向けた社会福祉・疫学的研究、市町村からの受託費用。ありがとうございました。